

平成18年度知床国立公園利用適正化検討会議

知床半島中央部地区作業部会(第1回)

知床半島先端部地区作業部会(第1回)

議事概要

平成18年6月22日 13:40~16:00

羅臼町公民館会議室

1. 開会

2. あいさつ 環境省釧路自然環境事務所長

3. 議事

【中央部地区】

(1)平成18年度「中央部地区利用適正化基本計画」の具体化にかかる検討について

◆資料1「中央部地区利用適正化実施計画(案)」の作成について 事務局説明

【質疑応答】

- (座長) 資料1について、質問、意見はないか。
- (観光協会) マップが三地区作成されるということだが、カムイワッカ地区が含まれていないのはなぜか。
- (事務局) 地図に描いてある程度広がりを得られるような場所を想定した。自然利用マップのような形で考えた結果である。カムイワッカについては、資料後半についているA4程度の大きさで十分表示できると考えている。
- (小林委員) 利用マップに関して、三地区という話で気になっているのは、一般の利用者から見ると、先端部は立ち入らないでほしい、カムイワッカもだめでは、世界遺産に登録されることによって規制ばかりが増えているように感じているということである。自然遺産を守るためには、一般の観光客に対しては、いろいろなルールを守ってもらわなくてはならない。これは、自然を守るということと、安全を守る(リスクマネジメント)という二つの意味がある。このことを、一般の観光客に説明をする必要があるのではないか。
- 規制箇所を作ることの理由と、それ以外の場所では質の高いサービスを提供するといったような、全体の趣旨の説明を一般の利用者にもわかりやすく入れていただいた上で、この三地区の説明をしたほうが良いと思う。
- 羅臼湖にしても利用者が増加しており、いずれは規制が必要である。これは一般の利用者から見れば不便なことであるが、なぜ不便にしないでほしいのか、ある程度不便であるが、その結果自然が守られるのであるということ、あるいはガ

イドがついて自然への理解が深められる、これが知床における一般観光客のあり方である。それ以外のところはまた別のルールでやってもらうということを示したほうが、利用適正化によって何をしようとしているのかを理解してもらえと思う。

- (座長) 基本的には私もそういったことを書いているつもりなのだろうと思う。ただ、こういったものは、「説教」になりがちなので、途中で読んでもらえなくなるようなことではいけない。利用者マップについても、そういったことを書いたほうが良いと考えているか。
- (事務局) その内容については、(3)－①のところでもわかりやすい形にしていきたいと思う。ご相談しながら進めたい。
- (中易委員) 利用者マップのところで、あれを検討するこれを検討すると書くのはおかしいので、あまり書かないほうが良いのではないかな。
- (座長) ここでいう「検討中の」という言葉は、「現在検討中の利用ルール」という意味ではないか。今検討中でも、いずれ検討し終わったものを書くということ。
- (事務局) 表現があいまいであったと思う。
スケジュールとしては、今年度中に案をまとめ、来年度シーズンに間に合うようにしたいと考えている。
- (中易委員) 了解した。検討中のものまで書くということではなく、現在は検討中だが、その結果出てきたものを書くということか。
- (座長) そうだと思う。
そのほかにはないか。いい物を作るためのアイデアを出してほしい。今日ここで全部アイデアがまとまらなくても、後ほど事務局に言っていただいてもかまわないが、こういったことを入れたほうが良いのではないかとということを出してほしい。
- (小林委員) 中央部地区利用計画案をこれから作成するが、中央部地区については、自動車適正化協議会やカムイワッカ湯の滝協議会があり、そこでもいろいろな決め事をしている。協議会全体と適正化委員会との関係性をはっきりしたほうが良い。それぞれの協議会で話をし、全体的なことはこの適正化委員会でしているが、お互いどういった関係で調整していくのか議論したほうが良い。これは実施計画であり、それぞれの協議会よりも具体的な作業をしているから、お互い矛盾がないように作業を進めてはどうか。

(座長) ほかにはないか。
私の意見として、こういった種類のマップというものは、良いものを作れば使い度がある。しかし魅力がないとゴミ箱に直行してしまう。その点、良いものを作る必要があるが、良すぎてもどんどん持っていかれて経費がかかる。有料というわけにはいかないかもしれないが、たとえば寄付金の箱でも作っておき、そこにお金を入れてもらってはどうか。非常に先走ったことではあるが、要するに、無料でなくても良いのではないかということである。そんなことも含めてご意見をいただきたい。
特になければ、小林委員の言う全体的な趣旨説明、世界遺産としての知床、特殊な位置づけにある知床国立公園の意味、なぜルールがなくてはならないのかといった、基本的な説明を書くということを含めて考えていただくということによる。では次の話題へ。

(2) 各地域別実施計画策定事項及び平成 18 年度以降の具体的対応策について

◆資料 2 「1.知床五湖」について 事務局説明

【質疑応答】

(座長) 資料 2「1.知床五湖」について、質問、意見はないか。
知床財団はどうか。

(知床財団) 過剰利用とヒグマの安全対策については緊急の課題として検討してきたが、なかなか前進していない。このスケジュールの中で、平成 18 年度から高架式遊歩道の延長、それに合わせて地上部分の過剰利用の調整、これを同時に進めていただけるということで、大きな前進であると期待している。

(座長) 過剰利用をどうするかというのは非常に大きな問題である。ひとつ気になっているのは、「広報・周知」にトイレの不足とある。「トイレが足りませんよ」と広報するだけでは意味がないのではないかと思うがどうか。ここの「広報」で期待するのは「ずっと手前で済ませてきて欲しい」ということだと思うが、そう簡単にいかどうか疑問である。

(事務局) 先ほどのチラシの中に、「知床五湖を快適に利用するために知っておいてほしいこと」というチラシがあるが、その裏面にトイレの話を少し書かせていただいている。ご指摘の通り、トイレがここにしかないこと、混雑するのでなるべく前もって済ませて欲しいということを書いてある。場所柄、施設整備として大規模なことをするのは難しいと考えており、まずはソフト的な面での効果を期待している。

(小林委員) 意見は三つあり、まずひとつは「⑦関連地域での対策」というところで、そこに夜間動物観察や冬期利用による鳥類への影響ということがあがるが、これについては知床自然科学委員会というところで調整・連携を図りながら進めるべき

ではないかと思う。また、「④モニタリング調査」。これを管理とどう絡めていくのか、精度の問題がわからない。カウンタを設置するとして、それを五湖ごとの管理とどうつなげていくのか。実際の管理に役立てるためには、どういったデータの取り方が良いのかということである。また植生の荒廃についても同様で、植生の荒廃をどういった指標でデータを取るのか、あるいは歩道の通行を止めた場合に、どういった指標で植生の復元を見ていくのか、それを決めておかないと効果の確認のしようがない。こういった自然環境についての指標の選定や、その扱いについては、専門家の委員会と調整をしながら進めていくべきである。

二つ目は、「⑤施設整備計画」の中で、いろいろなものが作られていくが、その時に、五湖とそのほかの場所の相対的な関係性を明確にして欲しい。

五湖の中だけで見るのではなく、知床全体を見通しながら進めることが大切である。これはヒグマ対策にも絡んでくると思うが、どのようなヒグマ対策をするか、管理する側の人員の問題や、観光客の利用の仕方もあると思うが、クラス分けの論議をしていく必要がある。これまで先端部や中央部などのクラス分けをしてきたわけだから、それを踏まえながら、対策をする側の位置づけを明確にして議論すべきではないかと思う。

三つ目は突拍子もない話かもしれないが、五湖こそ利用調整地区を入れるべきではないかと思う。利用調整をかければ、もろもろの問題があつという間に解消する。利用調整というと少人数しか利用させないように感じるが、逆に利用調整をかけることによって、多くの利用者を受け入れ、ルール作りも進めやすくなるのではないか。

(知床斜里観光協会)

小林委員のいうことに同感である。以前にも話したが、知床利用の象徴的な部分がここにあると思っている。年間50万人という客が自然と対峙したとき、どのような切り口で見てもらえるのかということ、むしろ客に提案していくような環境づくりをすべきだと思う。知床利用の象徴的なエリアになるのではないか。私は今回エコツーリズムということできているが、現場のガイド協議会というのが、客とのやり取りのレベルをどうしようかと、今非常に苦労している。それぞれに思惑もあり、協議会としてのルール作りが進んでいない。できれば大枠を環境省から提案していただきたいと思っている。木道が新しくでき、延長もされるということで、五湖の利用の仕方、アプローチの仕方をどうしていくかなど、ガイドのほうでも整理ができるのではないか。

小林委員の提案をもっとふくらませて出していただけたらと思う。

(座長)

今の小林委員の提案、五湖でこそコントロールをしたら良いのではないかということは、実験的にでもやってみることを考えなくてはならない。いくら混むといつてもべつ混んでいるというわけではないし、(利用者の)一番のピークをどうやって下げるかということが問題だから、一年中制限するというではない。

議論ばかりしていても、やってみないと分からないこともあるだろう。

(知床斜里観光協会)

「情報の提供機能の不足」について、現レストハウスの有効活用ということがあるが、これは今五湖で民間に委託されている売店などに利用されている部分を指しているのか。

(事務局)

レストハウスの中、向かって右側に、チラシを置くなど、いろいろなことを周知するスペースがある。そこをもう少し有効に活用できないかということを考えている。

(知床斜里観光協会)

レストハウスは民間の業者が委託を受けて経営している状況があるので、将来についての言及になるかと思ったので質問した。今の段階での話なら可能である。

(座長)

ほかに意見・質問はないか。では次へ。

◆資料 2 「2..羅臼湖」について 事務局説明

【質疑応答】

(座長)

資料 2「2.羅臼湖」について、質問、意見はないか。

(ウトロ漁協)

二つ要望がある。一つ目は、資料の文字が小さくて見づらい。

二つ目は、バスの峠の路線運行。地元のガイドや登山者による利用が大部分だと思うが、こういったことをバス会社に頼むときには、ほかの路線へのつながりなども考慮して検討して欲しい。バス会社としては、知床が自然遺産になったことでいろいろ見込んでいると思うが、実際には、マイカーでの利用がほとんどである。利用しづらいバスには乗らない。そういったことをバス会社に知らせてやることも必要ではないか。

いろいろな配慮をしながら進めないと、バス会社もこれで出来上がったと錯覚してしまう。羅臼湖入り口に駐車場を作るようお願いするようにということだけでは不十分である。

(事務局)

この時刻表の見返り峠というのは、こちらの案として出したもので、まだ存在しない停留所である。それ以外の停留所についてはすでにあり、この時刻表にしたがって、今年の6月15日から10月15日まで、運航を開始している状況である。

(座長)

ウトロと羅臼をつなぐ路線がすでにできていたということか。今後、羅臼湖という

ものを考えるというのであれば、検討の余地はまだある。
会社のほうでは羅臼のことは考えていないのではないかと思うのだがどうか。

(事務局) その点については、事務局から阿寒バスに対し、羅臼湖入り口に停留所を設置してはどうかと相談させていただいている。阿寒バスとしては、設置したいとのことであった。

(座長) 先ほどの意見だと、往復するのに不十分ではないかとのことだったが。

(事務局) 現在の路線では羅臼湖に止まらない。ではどうしているかというと、知床峠に車を止めて歩いてもらっている。ここはすでに路線バスが運行しているので、第一歩として、バス会社がバス停を作り、本数は少なくとも現行の路線でバスが使えるようにする。これはバス会社でもやってくれそうだということで、警察や運輸局と相談をしていたところである。
先ほどの要望は、これを機会に増便するなりして、便のいい運行をして欲しいという、もうひとつ先のステップである。バス会社としてもいろいろ問題があると思うので、こういった強い要望があるということは伝える。

(羅臼町) この件について補足する。昨年までは、このバスは 2 便だけであった。昨年の検討会でも、これではまったく足りないから、なんとか 1 便増便できないかという話があった。要望したわけではないが、自然遺産になったこともあり、今年は 4 便でやることになった。自然保護官とも、これなら羅臼湖も二通り程度利用できる。そこでまず、利用するならバス停かと話をしていたところである。順調に行けば 7 月頃バス停ができるが、テストケースとして、どの程度の利用があるか調べ、利用があるなら、増便などの流れになると思う。

(ウトロ漁協) 話は良く分かるが、一般の方の意見を聞きたいという、このような場を設けているのに、なぜ環境省など関係者だけで話を進めるのか、はじめから要望を聞いておけば、無駄のない検討ができると言っている。

(事務局) ご指摘の点をふまえ、バス会社とも検討していく。

(座長) バス会社にできるだけ情報を流し、要望・考え方・必要性などを知らせておけば、もっとスムーズにいくかもしれない。
バス会社としては、これでやってみて要望や利用者が多ければ、商売だから増便など考えられるのではないかと思う。

(小林委員) 今のことに関連して二つ。一つ目は、これからの羅臼湖の施設管理を含めて、地域が主体となって管理していくことを考えなくてはならない。羅臼町、北海道、環境省も含めてである。利用者も一定のお金を払って利用しているとい

う仕組みを作らないと、羅臼湖の湿原の植生を守りながら管理を進めるのは難しいだろう。

地域がどうかかわっていくのかということである。地域経営という考えに立ってみると、環境保全というものを含めた中で議論しても良いのではないかと思う。二つ目は、適正利用基本方針の中で、「湿原の植生の保護を最優先とし」と書いてある。気になるのは木道で、最近ではこうしたウェットな環境で木道を使うのはいかがなものかという意見が出てきている。一番木が腐りやすい環境に木道を設置しているため、基礎の杭から含めて、非常に腐りやすい。補修工事をする際、そのたびに環境に負荷をかけているのではないか。そろそろ素材の議論をしても良いのではないかと思う。環境に負荷をかけないような素材、植物の種子の問題にしても、入り口の部分を金属のメッシュにしておけば、種子はそこで全部落ちてしまう。また、羅臼湖の木道は広くて、幅が2メートル以上ある。そのせいで、木道の下はまったく植生がない。これについては、植生破壊だとの批判が出ている。金属のメッシュにすれば地面まで陽が当たり、より環境への負担は小さいのではないか。金属を使うことについては自然素材ではないと抵抗感があるかもしれないが、自然を守ることが最も大切なので、別の方法もあるのではないかと検討して欲しい。

(座長) 十分に考えられる方向だと思う。ほかにないか。では次へ。

◆資料2「3.知床連山」について 事務局説明

【質疑応答】

(座長) 資料2「3.知床連山」について、質問、意見はないか。

(羅臼山岳会) 分散化という話の中で、「ベテラン登山者への羅臼温泉ルートを紹介」という項目があり、これと遭難者との関係でどのような方法が良いのか思いつかない。羅臼側で最も遭難者が多いのは今時期である。これは、屏風岩の大雪渓が残っており、そこへいこうとして間違っサシルイ沢へ入ってしまうというものである。ベテラン登山者へ羅臼温泉ルートを紹介するとしても、どうやってベテランとそうでない人を判断するのか疑問が残る。最近は特に中高年の登山者が多い。そういった人たちはガイドを連れてくることが多いが、そのガイドの質が非常に低いことがあるため、ガイドへの啓蒙も必要ではないか。

(斜里山岳会) 現時点で報告できることとして、岩尾別にバイオトイレを設置する予定があると聞いている。今年の利用がかなうかどうか、何か情報があればいただきたい。ほかには、保護管理、巡視などマスコミで報道されていたようなことをお知らせいただきたい。もう一点、岩尾別登山口の駐車場が少ないという話で、パンフレットではタクシーやシャトルバスを使うよう書いてある。今は朝1便しか走っていないはずだが、走ってもいないバスを使えというのはおかしくないか。まして

やウトロから登山口までタクシーで行くのは費用がかかりすぎる。
ホテルとの軋轢があるという話もあるので、駐車場の問題も含め、抜本的な対策を検討していただきたい。

(座長) 今の意見にあったバイオトイレの件はどうでしょう？

(斜里町) この件については、バイオトイレを寄付したいという話が斜里町のほうにあり、場所を検討している段階である。候補としては、登山口も挙げられている。ただし、処理能力が高くないので、それも含め検討している。車とホテルとの状況については、限られたスペースの中でホテルとバスの分を確保しなくてはならない。そうすると駐車スペースはほとんどないため、そうなると町道に止めていただくのもやむをえないと考えている。現在の状況で駐車スペースを確保することは、世政治的にも物理的にも難しい。登山専用のシャトルバスということも考えたほうが良いかもしれない。

(羅臼遊漁船協会)

1年間に入山させる人数の制限ということは考えているか。人数制限も考えないと、トイレの問題など経費もかかる。有料トイレなどというものがあっても良い。何かでお金を取っていくことも考えてよいのではないか。自然を守るためにも、人数制限を環境省で考えて仕組みを作って欲しい。

(座長) 私もそういったことは考えられるだろうと思う。ただ、そういったことは、人数をいい加減に決めることはできない。先ほどからもいっているが、一度試験的にやってみるということが大切なのではないかと思う。
網走森林管理署からは何かないか。

(網走森林管理署)

特に無い。

(ウトロ漁協) 作業的にはいろいろな点で難しいのかと思うが、現実起きている問題があるときに、どう対処していくのかということをもっと効率よく決めていくという作業はできないのか。

(座長) それをやっています。

(知床財団) 植生保護対策について、二つ池のルートを変更するという話だが、これは専門家からは、歩道も変更すべきだし、野當地も湖の際から完全に離すべきであるという意見が出ていたはずだが、この点についてはいかがか。

(事務局) その点を踏まえて、今年登山道全体を調査し、考えていくということになっている。

(小林委員) 先ほど、利用ルートを羅臼側に分散するという話が出ていたが、その件で疑問がある。非常にもろい地質のところ人に人を集めるということは、斜里側よりも非常に厄介な登山道の管理の問題が出てくるのではないかと危惧している。登山道の持っているキャパシティを見極めないまま分散させてしまうと、かえって自然破壊が起きてしまう。分散させること自体が目的ではないので、まずキャパシティの見極めをしたうえで、分散の議論をしたほうが良いと思う。

(座長) ⑥のイ、安全管理の中の遭難防止対策では、ヒグマのこしか書いていないという指摘があったが、ここに遭難防止対策も含めたほうが良いということだと思う。では次へ。

◆資料2「4.カムイワッカ」について 事務局説明

【質疑応答】

(座長) 資料2「4.カムイワッカ」について、質問、意見はないか。

(網走支庁) 経過について若干説明する。カムイワッカにいたる道道については落石の危険があるということで、昨年より工事が始まっている。今年の冬、カムイワッカの滝自体にも落石の危険があり、これまでどおり人を入れてよいのかという意見が出てきている。利用者の安全を確保しつつ、どう利用していったらよいのかということ協議するために、4月12日にカムイワッカ湯の滝安全確保対策連絡協議会を設置した。4月12日に設立会議を開き、6月に7、10日に現地調査を実施した。6月11日には第2回の協議会を開き、今年の利用について協議した。今年については落石などの件から、2の滝以降への立ち入りは難しい。1の滝の利用にとどめるという結論になった。協議の中で、2の滝と3の滝は落石の危険があり落石の処理には経費もかかるなど、根本的な利用のありかたを利用適正化検討会のほうで検討していただけたらと思う。とりあえず平成18年度の対応については、安全確保対策連絡協議会で決めたということである。

(知床斜里観光協会)

非常に象徴的な状況になってきていると思う。カムイワッカについては昔から非常に多くの客が訪れ、知床らしい自然を楽しんでいる。自然というものに対する楽しさや癒しというものを感ずると同時に、自然に接するときの厳しさ、大変さというものも兼ね備えている。五湖の場合には利用するチャンスが多いという点において象徴的である。知床という場所が語られるとき、ヒグマとカムイワッカが象徴的に語られる中で、突然降ってわいたように規制がかかっている。利用

者側の立場からすると、客にいかにして自然を楽しんでもらうかという点で、徹底的な議論が欲しい。

知床という非常に稀有な場自然と接することができる、そういった場所として維持していくことが大切なのではないか。そして、できる限りの危険の排除をして欲しい。

(小林委員)

法律の専門家から聞いた話では、観光地とみなせる状態で事故が起これば、公園事業の利用施設となっているかいないかは、賠償責任の成否に関係がない。これまでの利用を認めていた状態では、事故が起きた場合には賠償責任を問われる。それを考えると、管理者や林野庁の考えも理解できる。ただ、考えなくてはならないのは、一般利用者に対する規制が、知床では2つ図られているということである。自然への影響をいかに緩和するかという問題と、危険の問題である。ここに地形の崩落という問題が入ってくる。そうした場合に、安全性の解釈をどうするか。簡単に結論は出ないだろうが、議論していく必要があるだろう。

大雨が降って水がフラッシュすることにくらべれば、人による踏み付けなどほとんど問題にならない。しかし、ここで問題になるのは、人間による自然への影響ではなく、人間の安全をいかに確保するかという点で規制がかかっているということである。これは五湖の問題、羅臼湖の問題、カムイワッカの問題というのは、知床の適正利用を考える上で全てつながっている。適正利用を考える上でのもうひとつの局面として新しい考え方を出してきているのだから、議論するためのたたき台として、もう少し違う観点から情報を集めて議論したほうが良いと思う。

知床以外の問題、たとえば谷川岳や剣岳の登山条例、これはベテランしか入山してはならない。入山して事故が起きても、それは入山者の責任であるとしたものである。こうした考え方もある。いろいろなやり方を踏まえたうえで知恵を出していけば、何らかの解決があるのではないかと思う。

(座長)

安全性の問題は、一番難しいことだと思う。基本的には、立ち入り禁止の看板があるのにそれを通り越して入るのは、当人の勝手(責任)であるというのが私の意見である。この場の議論の対象ではないとは思いますが。

これで資料の説明が終わったが、共通点がいくつかある。まず一つ目は、モニタリングの項目の荒廃のインジケータを考えたほうが良いのではないかという話を小林委員がしていたが、専門家にそのつど見てもらうということにはできないのではないかと思う。そこで、専門家の意見を含めて、チェックシートのようなものを作ってはどうかと思う。それを現場で使って、良いほう悪いほうのどちらへ向かっているか、方向性を読み取れるものが作れると思う。もうひとつは木道の荒廃の問題。五湖では網走支庁、羅臼湖では根室支庁が担当なので、意見を伺いたい。

- (網走支庁) 五湖の遊歩道については、支庁(道)が整備しているが、道の財政難はかなり厳しい状況となっており、基本的には国立公園で整備するものについては、危険性の高い部分の補修にとどめるという基本的なスタンスである。できれば環境省に移管していただけたらと思っている(笑)。今回若干の予算が下りたので、五湖の木道については、春に一湖と2湖の応急的な補修をし、秋に三湖と五湖の危険箇所の補修をする予定である。新しいものについては、無理である。
- (根室支庁) 羅臼湖について、木道では、2箇所ほど大きく破損している箇所については、若干の予算がついた。経年劣化のひどい箇所については、支庁の職員と関係団体の理解を得て手作業で金をかけないで手入れをしていきたい。ただし、将来的には木道が良いのかどうかという問題もあると思うので、新しい素材も検討したい。
- (座長) さしあたって、すぐに変更ということにならないのであれば、その間に金属など素材の検討もする、ということとする。
ほか、全体について何かないか。
- (知床斜里観光協会) 利用の分散化の部分がほとんど空白である。これについての考えを聞きたい。もうひとつ具体的なところで、五湖のヒグマ対策、これは斜里町と知床財団が担当である。先ほど山中事務局長が期待しているようなことを言われていたが、何か具体的なことが分かれば教えていただきたい。熊出没ということで現在も三湖から奥は立ち入り禁止となっており、閉鎖期間がかなり長くなっている。財団も苦勞しており、これは策がたたないのではないかと思う。これについて、財政的なバックアップが十分になされているのかと思う。そのようなことはないと思うが、現場を見て、策がないから閉鎖せざるを得ないのではないかと心配している。
- (座長) 全体のコントロールをどうするかということは非常に大きな問題である。どのように制限するのか、人数や場所というのは、大まかな見当はつけられるかもしれないが、どれが正しいのかはなかなか分からない。季節や曜日などいろいろな条件を見て、実験をするしかないのではないか。もう少し検討させていただきたい。
- (斜里町) 皆さんがいわれる通りの状況である。少し説明すると、一湖から五湖まで遊歩道あるが、昨年からのシーズンの早い段階で、三湖から五湖はあえて閉鎖し、その間、一湖と二湖の木道に、ヒグマ撃退のための電気柵を設置した。
スタッフの対応については、現在の人数では限界である。現地に常駐するくらいでないと厳しい。
現在の方式でヒグマを撃退できるのなら、少なくとも一、二湖は確保したいとい

う前提での対応ということで、斜里町と北海道、環境省で分担して対策をスタートしている。将来的に維持できるか、この方法でよいのかという課題があると思っている。基本的には、これは応急的な緊急対策なので、地元の希望を言えば、ヒグマ対策がとられている木道のほうへ、多くの観光客を誘導したい。これは恒常的なものとし、閉鎖ということが無いよう運用している。地上歩道については、ある程度のコントロールをし、ルールの下で、ヒグマ対策の取れるような状況、ガイドがつくなどの場合には利用を可能にして一方的な閉鎖とはならないような話にしたい。そのためにはルールを理解してもらうことや、木道を作るという大きな投資も必要だろう。

全体のヒグマ対策としては、まだまだ多くの課題があるだろうが、五湖としてはレクチャーのスペースなどが必要であると思う。そういった点を踏まえて次へ進みたい。

(釧路開発建築部)

羅臼湖にバス停を設けるという件で、これについては問題ないと思うが、見返り峠は急カーブであるため、ここにバス停を設け、バスが停車することは追突などが懸念され危険である。事前に周知することなどを検討して欲しい。

(座長) では、次へ。

【先端部地区】

- ◆ 資料 3「利用の心得(案)」の湯銭検討事項について
- ◆ 資料 4「利用の心得(案)」策定に必要な検討事項について(案) 事務局説明

【質疑応答】

(座長) 資料 3・4 について、質問、意見はないか。これは、案そのものを検討するのではなく、検討事項はこれでよいか、ということ。

(中易委員) 資料 3 というのが優先検討事項で、資料 4 というのが必要な検討事項となっており、どう整理しているのか良く分からないが、資料 4 の検討事項をやる、ということでのよいのか。

(事務局) 優先検討事項と書いているが、優先的に検討したい範囲ということである。実際に心得を検討するに当たって、具体的に並べると資料 4 になる。

(中易委員) 資料 4 の中で、立入りの抑制程度という項目があるが、人数・日数の目標というのは、非常に誤解を招く表現ではないか。目標というのはこれだけ人数を確保せよということなのか、それとも例えば 100 人以下にするというようなことなのか。
後の話にはなるが、議論の結果何人程度以下にするとして、それを確保してい

くシステムを現在どう考えているのか。

3 ページ目に計画書の提出という項目があるが、計画書を提出する時期についても一度検討したほうが良い。事前にレクチャーを受ける際に計画書を提出すればよいとなっているので、例えば東京あたりから来ても、レクチャーを受け計画書を出せばよいのか、それとも計画書について内容を検討するのか、具体的に検討してみてもどうか。

(小林委員)

アメリカなどでは人数制限はあきらめている。絶対的な数値というものはない。手法を後から検証できることに重点を移すべきである。指標を選定すること。指標を越えた場合、人数制限か、それとも別のコントロール手法をとるのか。その中の選択肢として区域の利用制限があるのか。といったことを考えるべきである。とにかく利用制限というのは、効率が良いわけがない。管理手法をもっと議論したほうが良い。この案はまだ粗い。管理手法をシステム化して、その中で制度をどういかしていくのかを考えたほうが分かりやすいと思う。この案ではすぐ人数調整となっているが、これは経費もかかるし反感も招きやすい。緊急的に使うことがあるので、これも重要なのだが、体系的にはもっと重層的に作ったほうが良いと思う。

(座長)

いくつか出された意見を含めて、検討を要する事項、検討目標というものをもう一度検討していただいて、次の利用の心得へと進んでいただく、ということにしたい。
では次へ。

◆ 資料 5「平成 18 年度検討会スケジュール(案)」

◆ 報告事項「センタ陰部の立ち入り自粛と、カムイワッカ方面のマイカー規制の報告

事務局説明

【質疑応答】

(座長) これですべて終了したが、意見・質問は無いか。

(斜里山岳会) ひとつだけお願いが。資料 5 の 8 月、現地調査が知床五湖、羅臼等で予定されている。これは関係団体だけに行くが、知床連山とはいわない、羅臼岳だけでも駐車場の状況やし尿の問題も含め、ぜひやっていただけたらありがたい。

(事務局) 現地調査の日程について、6 月中に先生方、関係者の皆さんと日程調整をしたいと考えている。

(小林委員) 第 2 回が 9 月に予定されているが、車両規制が 9 月 20 日まであり、データ整理などの関係もあるので、10 月頭あたりまで厳しい。整理が終わらない段階では議論にならない。そのあたりを考慮して欲しい。

(座長)

出された意見を踏まえて、日程を検討していただくということにする。では、これ
閉会としたい。

閉会